

2021年6月議会 南部・東部地域振興対策特別委員会

2021・6・15 今井光子議員の質問

*議会資料から作成したもので公式の会議録ではありません
日本共産党奈良県会議員団

コロナ禍 ウッドショック

こういふときこそ県産材を使うチャンスに。県産材利用拡大の促進 事業をたす

今井光子議員 奈良県木材生産推進事業で予算が2118万5000円ほど翌年度繰越しになっているのですが、今、ウッドショックで、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの輸入木材が入ってこないということで、住宅建築関係のお仕事をされている方が仕事が止まっていると大変困っておられます。

業者の方はもちろん、関係する職人さんなど、たくさんの方にウッドショックの影響が起きており、こういふときこそ奈良県の木材、国産材をうまく使うように切り替えていくチャンスでもあると思うのですが、この奈良県木材生産推進事業はどのようなことに使おうとしていて、これだけの金額が余っているのかお尋ねします。

具体的には、木材価格が輸入材、国産材ともに上がってきていると聞いており、工務店や住宅メーカーが材木の確保に大変苦労されています。建て売り住宅などでは主に柱などに使っている米松が入ってこないで大変困っているということでした。

先日、私もどのような実態かを木材に関わっている方のところまで行って、いろいろ話を聞いていましたら、今、和歌山県の本が市場では一番高い値段がついているとのことでした。奈良県の本があまり市場に出回っていないという話も聞かせていただきまして、なぜそうなっているのかと大変疑問に思っています。

奈良の本を使うという県の施策としては、奈良県の県産材を使って住宅を建てたり、リフォームをした場合に一定の補助金が出る制度がありますが、予算的に少ないので、4月から事業を始めると、4～5か月でなくなってしまうという話も聞きまして、地元で奈良の本を使って何かしたいと思っているところに最後までその事業で行き渡るぐらいの予算をつけて、もっと奈良の本の利用拡大をするべきではないのかと思いますので、その辺りのことをご意見をお伺いします。

内田森林資源生産課長答弁 奈良県木材生産推進事業は、まとまった森林施業区域である木材安定供給団地を設定し、意欲を持って木材生産に取り組まれる林業事業者等に対して、奈良県の急峻な地形などの地域特性を踏まえた壊れにくく長期間使用できる奈良型作業道の整備への重点支援を行い、利用間伐に繰り返し使用することにより生産コストの低減を図り、木材生産の利用拡大をしていくという趣旨の事業です。

当該の繰越しの案件については、この事業は国の予算を活用して実施していますので、国の補正予算に対応するために繰越し計上しているものです。

三浦奈良の木ブランド課長答弁 県では、住宅への県産材の利用拡大を目的として、地域認証材及び県産材の積極的な使用を推奨するために、平成25年度から県産材を用いた住宅を建てられた方々に構造材と内装材の費用助成をまいりました。

直近3か年の事業実績は、平成30年度が地域認証材87件、県産材137件、計224件、令和元年度が地域認証材88件、県産材139件、令和2年度が地域認証材93件、県産材123件です。

今井委員からご指摘いただきましたとおり、今年度も4月21日から申請受付を開始していますが、地域認証材については今月中を目途に、また、県産材についても秋ぐらいを目途に所定の件数に達する状況になっています。

例年、予算確保に努めているところですが、今後とも、このような状況に鑑み予算確保にはしっかりと取り組んでまいりたいと考えています。

今井光子議員　私は和歌山県の木が一番高いと聞きましたので、奈良県と和歌山県とでは何が違うのかと思い、和歌山県の林業関係のホームページを見ました。そうしたら、一つの施策が窓口になっていて、そこをクリックしたらどのような施策があるのか一目で分かるようなホームページになっていました。奈良県も大体同じようなことやっているのですが、施策の見せ方が和歌山県のほうが体系的になっていると非常に感じました。

奈良の木利用拡大検討委員会

開催実情をたず。女性委員を入れるよう要望

今井光子議員　奈良の木利用拡大検討委員会をつくられていることが分かったのですが、どれくらい開催されているのか、その辺りの実態を教えてください。

三浦奈良の木ブランド課長答弁　奈良の木利用拡大検討委員会ですが、昨年度は3回開催しました。

今井光子議員　どのような内容が検討されたかホームページに出たりしていますか。

三浦奈良の木ブランド課長答弁　昨年度の開催結果については、確認させていただきたいと思います。

今井光子議員　委員名簿を見ると、各界の代表的な方15人が名前を連ねておりましたが、今、ジェンダー平等など、いろいろ言われている中で、女性が1人も入っていませんでした。木を使うということであれば、女性の委員も入れていただいて、もっと木の新たな視点での活用も考えていただけたらいいなと思いますので、これは要望しておきたいと思います。

(了)